

全附P連 令和6年度 附属学校・PTA活動 情報紹介シート

所属学校名	京都教育大学附属桃山中学校		
役職	副校長	氏名	秋山雅文
活動名称	将来の姿とそこにつながる道筋をリアルに描く「生き方探究」		

本校では、令和5年度から総合的な学習の時間に「生き方探究」を開設しています。2・3年生が混在で学年全体や少人数グループなどの単位で、自己理解を深め、他者との交流を通して未来の自分の姿を描いていきます。この「生き方探究」は、本校独自の学びとして内外に大きな反響を呼んでいます。小学生の頃はプロスポーツ選手や声優などになりたいという夢を語っていた子供たちが、中学生になると途端に公務員になりたいとかお金持ちになりたいとか言うようになります。これは、理想と現実を自覚するようになる面もありますが、達成できなかったらどうしようとか、友達から冷やかされたら恥ずかしいなど守りの姿勢に入ったことによる場合が多いと思います。多くの子供たちは自分の将来の夢を隠し持っています。その中で、それを公言し、実現に向けて実際に歩みを始めた人こそが、夢を実現していく場合が多いのが実際です。「生き方探究」では、それらを掘り起こし、自分にもできるという希望と見通しを持つことができるよう、将来の姿とそこにつながる道筋をリアルに描こうということを目指します。

これまでの活動状況を紹介します。オリエンテーションに続いて、自己分析を深めていきます。自分の好むものを挙げていく「偏愛マップ」を作成し、「ストーリーテリング」では自分のこれまでを物語にして聞き合いました。3年生は、ライフバランスについて考えます。ともに「話すこと」が好きでその道を志してきた2人の方、CBCアナウンサーの齋藤初音氏と長崎平和語り部の坂本薫さんからビデオメッセージをもらい、仕事とライフワークとして、どのようなバランスの生活が望ましいかを描きました。

その後、大きな夢を描いてその実現に向けて歩みを進めた講師による講演会をおこないました。令和5年度は3回実施しました。その内容は、次の通りです。

① 国会議員 泉 健太 氏

政策論には一切触れることなく、政治家を志したきっかけ・理由や、「社会貢献家」としてどんなことがしたいのか、現在の生活の様子や将来のビジョンについて話してくださいました。野党第一党党首という立場上多くの警備員が会場に入り、経験したことのない緊張感に子どもたちは圧倒されていましたが、休憩時間にはきさくに握手をしたりサインを書いたりしてくださいました。また、「論戦体験」として3年生の代表生徒2名が論戦を挑みました。本校のディベートチームはこの年度に全国大会で優勝する実力を持っていますが、視野の広さが圧倒的に違い、泉氏に完敗という結果でした。



② シンガーソングライター 坂本 櫻 氏

シンガーソングライターを目指したきっかけから、中学高校時代のように、大学での活動、現在の毎日のように話をしてくださいました。何曲かのオリジナル曲によるミニライブにしてください、曲の間に普段考えている事や収入と支出の実際についても話してくださいました。音楽部の代表生徒との共演や、ミュージックビデオの撮影を体験活動として実施してくださいました。このビデオは、体験活動の予定だったのですが、出来が非常に良かったため、写っている生徒・保護者の了承を得て、実際の楽曲のミュージックビデオに使用されることになりました。また、講演会后、音楽部や美術部を訪ねたり、校内の風景を撮影したりしながら多くの子どもたちと交流を持ってくださいました。



③ NHK 京都放送局アナウンサー 竜田 理史 氏

地元局で毎日夕方のニュースを担当しているアナウンサーに来校していただき、アナウンサーになろうと思った時のこと、中学校から大学までの歩みや意図、毎日の仕事のように話をしてくださいました。その中で、NHKは地域の防災に責務を負っていること、非常時のテレビからの呼びかけ方についてお話してくださいました。残念なことではありますが、その数か月後に能登半島地震があり、当時のアナウンサーの呼びかけが、この時の講演内容そのままであったことに、子どもたちは大きな衝撃を受けました。また、各学級の代表によるミニアナウンスコンテストを実施してください、実物のニュース原稿を読み、それぞれにコメントをくださいました。



令和6年度は、「人生を支えるスキル」をテーマとして講演会を計画し、①起業家の方に「人つながりの広げかた」②アナウンサーの方に「上手な話し方」について講演していただく計画となっています。

後半の選択活動では、少人数グループで同じように話を聞いたり、体験活動に取り組んだりします。令和5年度に開設したコースは、①作業療法士 ②弁護士 ③大学教員 ④カメラマン ⑤広報企画業・クリエイター ⑥旅行業 ⑦警察 ⑧幼稚園教諭 ⑨伝統工芸士 ⑩公務員 ⑪起業家 ⑫アーティスト ⑬マスメディア ⑭交流証言者



(平和語り部)です。少人数なので密度の濃い活動ができました。それぞれの職業に対してのプロ意識であったり、やりがいであったり様々なことを感じ取り、考えることができていました。

これらの活動と並行して、「人生の逆算」という発想を持ちます。何歳でどのようになっていたいかというめざす姿をもとに、そのためには22歳でどうなっている必要があり、18歳でどのようなことができているべきか、15歳でどのような力が必要か、というように時間軸を逆に見て現在までを描きます。話を聞くことができた人たちの「人生の逆算」を考えて自分と比較したり、自分の「人生の逆算」をより明確に描いたりしていきます。その資料の中で先輩が言っている「ぼやぼやしていたら、もったいない！」という言葉に多くの生徒たちが刺激を受けていました。

いずれの場合も、夢を描いてつかまえた人たちも、みんなと同じように中学校時代は教室で勉強をしていたということを改めて認識できます。彼らは何を意識してどんなことをしてきたのかに触れ、自分にもできるという希望を持つことができます。そして、より現実的に未来のなりたい自分の姿を描き、そこまで続く道のりを具体的に描くことができます。多くの生徒がこれからの人生を、希望をもって歩んでいくことを願っています。